

【 神様に断れる祝福 】

聖書: 第一 歴代誌 17章1-4節、16-27節 / 暗唱聖句: ローマ人への手紙 8章 32節

説教者: 鄭南哲牧師

(REV. Jung nam-chul)

愛するみなさん! 一週間も主の平安で守られましたが、イエスキリストを信じ、受け入れたクリスチャンたちは創造主の父なる神様に祈れる特権が与えられています。みなさんは先週一週間も神様から与えられている祈りの特権をよく使えましたか。みなさんの切なる願いが神様によってかなえられた時はいつだったのでしょうか。きっとその時は一番の喜びの時だったでしょう。その瞬間はいまもみなさんの記憶で生々しく残っていると思います。自分たちの人生の歩の中では多かれ少なかれ一度は自分の願いがかなえられて感激し、喜んだときがあると思います。ある方は親の反対の承諾をやっと得て結婚式をあげた日は一生、忘れられないという方もいれば、ある人は自分の行きたかった大学に合格したときだという方もいます。芸術をする方々は初めての展示会とか音楽会を無事終えた時だとも言います。みなさんは今まで心の願いがかなえられたため嬉しくて嬉しくて一晩、寝れなかった時があるでしょうか。人々は自分の願いがかなえられる喜びを体験する事で人生の幸福を感じます。しかし、逆の時も当然あったかも知れません。自分たちの夢や願い事がかなえられず絶望した時はいつだったのでしょうか。しかし、みなさん、神様は私たちの生涯を通してある時は神様が我らの願いを聞き入れてくださることによって栄光を受ける時もあれば、私たちの願いを聞いてくださらない事によって私たちを祝福する時もあることをご存知でしょうか。

我々が祈る時、神様は我々の祈りを聞いて下さり、かならず答えて下さるお方であることはみんなよく知っていると思います。ところが、ある人は神様からの答えて言うものはいつも“OK!YES!”のみ考え込んでいる傾向があるため、神様が自分の祈りや願いに YES! の答えをしない場合、落ち着かず、あせったり、神様を恨んだり、落胆に落ちいたりもします。その人は自分が求めている内容に神様がただ YES! して下さることのみが祝福だと思い込んでいるからです。

しかし、神様の答えにはロボット見たいに“YES!”だけではなく、当然“NO!”もあり、“NOT Yet(まだ)”もあり、どんな答えでもすべてに神様の祝福がそこにはあることを忘れないで下さい。

今日は特に“神様から違うよと言われる時、つまり私たちが神様に求めたら神様が NO! だと断れる時の祝福”というタイトルでみなさんとともに神様の恵みを分かち合いたいと思います。

〈 本 論 〉

今日、私たちはダビデの生涯をとおして願いを聞いてくださらない事によりどんな祝福が与えられるのかみなさんとともにさぐってみたいと思います。今日の聖書の本文によりますと、ダビデは神様のために神様が臨在し、神様に礼拝をささげるために聖殿を建てたいという素晴らしい良い計画と願いがありました。そして神様もダビデがいただいていた願いがよしとされました。それにもかかわらず、神様はその良いことをダビデにむかってはためだと言われ、そして結局ダビデを通してその願いはかなえられませんでした。

今日の本文を通して教えられるところは、私たちが神様に良い意図と動機をもって祈り求めても、神様から断然に NO! だと言われる時があります。しかしその時神様の御心と計画を知ると思いもよらぬ素晴らしい神様の祝福が私たちに与えられている事がわかります。これはまるでスタンドガラスで作られた建物のようです。ヨーロッパに行ってスタンドガラスで作られた教会や建物をみると、外側ではまるで修道院のようにかたくく、くらしい雰囲気です。ところがいったん中に入ってみると言葉では表せないほどつくしい光が色のガラスを通して輝いている事を見ることが出来ます。このように神様も私たちが夢にまで願っていたことがあったとしても違うよといわれたその裏面には多くの祝福をかくしておいているのです。

みなさん! それは私たちの生涯にあっても事実です。神様は誰よりも私たちをよくご存知で愛しておられるため私たちの願いにおいては異なるかもしれませんが、事実それは私たちにたしかな祝福となります。

例) 自分の話をさせていただいて申し訳ありませんが、うちらはもう子どもが 5 人になっていますが、正直に今も妻と結婚し

た時を忘れません。当時日本にいる妻を3年間、切ないの思いで韓国で待たすえ、ついに結婚にゴールインしたわけですので、むしろ私のほうが感激で、その時を一生涯、忘れないと思います。なので今も妻を私に与えてくださったことを一番の感謝の課題として思っています。ところが結婚する前、私には大学時代、いやもっとおさないころから一緒に教会にかよいながら付き合っていた初恋の姉妹がいました。このまま結婚に導かれたいと思うほど私の方が大好きでした。正直、その時は本当に結婚したかったです。しかし結局、私が軍隊に行っている間、その姉妹とは別れてしまいました。しかも私のよく知っている先輩と付き合い始めたと聞いた時はたしかに、どれだけショックで絶望的に神様に恨みながら訴え続けたのかわかりません。お互いが神様を愛し、真実に仕え、信仰の生活もきちんとしたのにどうしてこのような試練と苦しみを与えるのか、なぜ私の切なる願いを聞き入れてくださらなかったのか本当に神様を恨みました。しかしある日、教会で祈っている間、神様から与えられた答えを私はいまも生々しく覚えています。神様は“私がそうさせたのだ!”と言われました。その時はどうしても神様の御心が理解できませんでした。それでも神様に一生懸命に抗議しました。しかし後になってようやく、だれかのあやまちではなくもうすでに神様が私に一番ふさわしく整えてくださった今の妻との出会いのため、今の妻を通してくださる大きい祝福と感謝の時のために、神様はその時は私の切なる願いを断り NO とされたことがわかりました。

今考えて見ると、神様は私が願っていた方向に人生を導いてくださったのではなく、私のため神様の願われている道に私を導いてくださいました。私の必要に応じて満たしてくださったのではなく、私を祝福するため神様の必要に応じて私の人生を導いてくださったのです。かりに、私の意図のとおりにならば人生を生きてきたなら、その人生はどれだけつらかったでしょうか。考えたくも、想像したくもありません。そういうわけですから、私たちの人生は自分たちの手にあるのではなく、まことに神様の御手に私たちの人生がおいてある事を告白せざるおえません。これをさとする事こそ知恵であり、信仰ではありませんか。

ある方がこう話した事を聞いた事があります。“地獄とは人々が願うとおりになるところだ。反面、天国とはどんなところでしょうか。神様の御心のとおりになされるところそこが天国ではないか。”

自分たちを見てみましょう。自分の気まぐれの姿で、人々の考えのとおりこの世が変えられていくと想像してみてください。自分のように無知な人の思いとおりにこの世が描かれて行く想像してみてください。むしろすべてが人の願いどおりにならないため、かえて希望があるかも知れません。自分たち、人々では予測できない神様がおられるため、わたしたちの人生の変化も、主にある希望も期待できると信じます。

< 神様が NO だと言われるときの正しい態度 >

それでは神様から NO だと断られた時ダビデはどんな態度をとりましたか。これはとっても大切です。この信仰の知恵を私たちもぜひ学んでほしいです。

一つ目は、神様が聞いてくださらなかった事でもそれに執着しないで、相変わらず、神様を信頼し、神様からすでに与えられている祝福に対してさらに感謝しましょう。 普段私たちはどうですか。祈ってもまだくださらないこと、まだ与えられてない事にたいしてずっと恨みます。そしてすでに与えられている事に対しては今までの感謝も失い、忘れて生きます。

しかし、ダビデは神様から断られた時に神様を恨んだり、落ち込んでたりしていません。却ってこのように言います。本文の17章 16節です。どなたが読んでくださいますか。これはつまり、“神様。私は自分をよく知っています。自分の未熟さをよく知っています。私にはよい背景もありません。しかしそんな私を神様は分にあまるほどの祝福で導いてくださった事を感謝します。”と告白する内容です。

愛するみなさん！ダビデがこの告白をした時はすでに彼はすべてを成し遂げた時でした。イスラエルを統一させ、百戦百勝（ひやくせんひやくしょう）の勇将（ゆうしょう）だったし、まわりの王たちがダビデを恐れているほど成功と力を手に入っていた時でした。彼はたくさんのお金を手に入れ、だれもが見てもうらやましがらるほど偉大な王の立場にいましたが、神様の御前で彼はいつも過去の自分を忘れないで、知恵もなく幼かったころの自分をつねに思い出しています。そういうわけでダビデは神様は自分を大切にし尊いものとして扱ってくださったと告白しています。そして自分だけではなくイスラエルの民にたいしても神様から施された恵みを思い出します。その内容が今日の本文 21-22 節の御言葉です。どなたが読んでくださいますか。愛する信仰の家族のみなさん！神様に祈り求めた事に対して YES と答えてくださった時も、逆に NO!だと断られた時も

ダビデのように今までもすべて私たちに有益になるように祝福し、満たして下さった神様を覚え、信頼し、私たちも感謝していくべきではないでしょうか。

神様が自分の願いに対して首をよこにふる時、“神様は私を愛しておられると言いながら、どうして私にこうされるのですか。”と失望し挫折しないで下さい。ダビデのように今までのことを一度、深く振り返って見てください。みなさんのはじめから今までイエス様がどうやって導いてくださったのかを。そしてそのとき与えられた祝福と恵みをもう一度かぞえてみてください。すると、今の姿だけでも、今の状況だけでも十分神様の恵みと導きに感謝の告白ができると信じます。

普通自分の子供を愛する親が子共に断然にはっきりと NO!だと断れる時にはその子供がまだ理解できなくても、かならず理由があって、それがその子どもに全然有益だから、将来のためには今の断りがもっと祝福になるからそうさせていることを忘れないで下さい。天の父なる神様もその神様を信じている子供である我々に対しても同じではないでしょうか。

マタイの福音書 7 章 11 節に“あなたがたは、悪い者ではあっても、自分の子どもには良い物を与えることを知っています。とすれば、なおのこと、天におられるあなたがたの父が、どうして、求める者たちに良いものを下さらないことがありますよう。”

ですから神様から YES! OKIだけではなく、NO!と言われる時をも今までみなさんをここまで導いて下さり、すでに神様から与えられていることを覚え、神様に信頼し、感謝する私とみなさんとなりますように祈ります。

二つ目に、神様から NO!と言われた時こそ、神様がこれから与えようとする事を期待しましょう。

今日の本文 25 節をみてみましょう。ダビデは神様から断れている時こそ、神様の約束をつかみます。そしてその約束をもとにして神様に求めます。与えてくださらなかった事から目をあけて神の約束ある御言葉に戻り、御言葉を通して神様が自分の人生に与えてくださった数多くの約束を見上げて下さい。神様が約束されたあらゆる祝福と永遠の命は神様を信じている私たちにすでに与えられています。

例え、さびしい時に神様はあなたとともにおられると約束してくださいました。“あなたの一生の間、だれひとりとしてあなたの前に立ちだかる者はいない。わたしは、モ?セとともにいたように、あなたとともにいよう。わたしはあなたを見放さず、あなたを見捨てない。強くあれ。雄々しくあれ(ヨシュア1章5節)”この神の約束をにぎって下さい。

心に不安と思ひ煩いの時主は“なにも思ひ煩わないで、あらゆる場合に、“感謝をもってささげる祈りと願いによってあなたがたの願いことを神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリストイエスにあって守ってくれます(ピリピ人への手紙 4:6-7)”という神の約束を覚えて下さい。

無気力を感じ、自信をなくしたときイエス様は“できるものなら、と言うのか。信じるものには、どんなことでもできるのです(マルコの福音書 9:23), “私は、私を強くして下さる方によって、どんなことでもできるのです(ピリピ人への手紙 4:13)”と告白されています。

経済的に困っている時、“また、私の神は、キリストイエスにあるご自身の栄光の富をもって、あなたがたの必要をすべて満たして下さいます(ピリピ人への手紙 4:19)。”と約束されました。信仰がたりなくてなやむ時には“あなたがたは心を騒がしてはなりません。神を信じ、またわたしを信じなさい(ヨハネ 14:1)”、“信じます。不信仰な私をお助けください(マルコ 9:24)”

金銭への欲望や様々な誘惑で不安な時、“金持ちになりたがる人たちは、誘惑とわなと、また人を滅びと破滅に投げ入れる、愚かで、有害な多くの欲とに陥ります。金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。ある人たちは、金を追い求めたために、信仰から迷い出て、非常な苦痛をもって自分を刺し通しました(第一テモテ 6:9-10)。”という御言葉を覚える必要があるでしょう。

苦難と試練を耐えなく苦しむ時、“愛する者たち。あなたがたを試みるためにあなたがたの間に燃えさかる火の試練を、何か思いがけないことが起こったかのように驚き怪(あや)しむことなく、むしろ、キリストの苦しみにあずかれるのですから、喜んでいなさい。それは、キリストの栄光が現われるときにも、喜びおどる者となるためです(第一ペテロ 4:12-13)。”

罪責感にとらわれて不安なとき、“こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです(ローマ書 8:1-2)”

恐れる時、“神が私たちに与えてくださったものは、おくびょうの霊ではなく、力と愛と慎みとの霊です(第二テモテ 1:7)。”

病によって苦しむ時、“彼が私たちのわずらいを身に引き受け、私たちの病を背負った。”(マタイ 8:17)、“イエスは彼が伏せているのを見、それがもう長い間のことなのを知って、彼に言われた。(ヨハネ5:6)”、“主はみことばを送って彼らをいやし、その滅びの穴から彼らを助け出された(詩篇 107:20)”

そして死の恐怖の前でも“神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである(ヨハネ3:16-17)。”

“イエスは言われた。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。このことを信じますか。」(ヨハネ11:25-26)”

なぜ我々は自分が求めたことが早くもかなえられない、断られた時に不安になり、あせったり、かっかりしてしまうのでしょうか。今それが与えられないと、先が不安だからです。だから、この時こそ神様の保障と約束が必要ではありませんか。

神様はこのようすばらしい約束を聖書の御言葉を通して私たちにすでに与えてくださったのだから、与えられてない事に対しては未練を持たなで下さい。今年一年の間、神様はどうして自分の求めた事を聞き入れてくださらなかったのかに執着しないで、すでに神様が自分に約束としてくださっていることは何なのか御言葉に戻り神様の約束をもっとつかみましよう。

< 神様の御心だけがなされるようにと願っていた信仰の人 >

ダビデは神様から NO!とされましたが、ダビデのその心だけは神様に受け入れられたことを確信し、いつか神様のその御業が成し遂げられるようにと万般の準備に着手(ちやくしゅ)することで彼の人生をすごしました。

愛するみなさん！人はどんなにいいことであっても自分がその企画にぬけていると無関心になるか、自分とはあまり関係ないためそんなに努力しない傾向はあります。これはこの世の人々の心です。あることにならず自分の名前が挙げられなければならないし、自分がその企画に属されているからこそ熱心に働こうとします。しかし神様を愛していたダビデはそうしませんでした。神様の住まわれる聖殿を建築するすばらしい奉仕からダビデ自身は抜けていましたが、神様が喜ばされることを知っているがゆえに聖殿建築のために具体的に自分ができることを最善をつくして準備しました。

第一歴代誌 22 章に詳しくこの内容が記されています。22 章 2 節からみてみましょう。14 節です。“見なさい。私は困難な中にも主の家のために、金十萬タラント、銀百万タラントを用意した。また、青銅と鉄はあまりに多くて量りきれない。それに、木材と石材も用意した。あなたが、これらにもっと加えてほしい。”そして 17 節をみてください。“そして、ダビデはイスラエルのすべてのつかさたちに、その子ソロモンを助けるよう命じた。”

ダビデ自身は聖殿を建てるのに直接参加できませんでしたが、そしてダビデは別にやらなくても大丈夫な仕事でしたが、自分のすべてを献身し、犠牲するほど神様の宮を建てあげるように最上(さいじょう)の材料を準備します。そして後継者にもこの準備が続けられるように準備させます。そしてダビデの次の後継者を助ける人々をも準備させます。徹底した準備をしました。自分のことではなく、神様のためなことだったからそうしました！ダビデ自身の名前は表に出されず、そして実際神様に断られたことですが、これは神様が喜ばされることで、尊い作業だと判断した時、心と思いを尽くして準備するダビデの姿をさきほど読んだ聖書箇所をとおして私たちは知ることができます。

愛する信仰の家族のみなさん！ダビデは自分にやる気や喜びがなければとか、自分の名前がかかわってないからとか、表されるべきであるなら、それは主のための働きではなく自分の働きにすぎないことを私たちはダビデをとおして学ばれます。神様は NO だと言われるのにもかかわらず今日も神様の名前をかりて自分の欲望をみたすために働く場合を私たちはときどき聞き、みています。ダビデが自分の名前とは関係なく神様のために、神様が喜ばされる事だったので喜んで仕え、自分のすべてをささげ、神様の御心だけが成し遂げられるようにと最善をつくすことができた力は原因はどこにあったと思いますか。あいかわらず、与えられている神様のすべての約束をいつも信じ、心に抱きながら経験していたからでした。

自分の願いが断れてもより多くの神様の約束を握っていたダビデの一生は神様の御心を成し遂げる一生でした。

< 人々の前では 2 人者(ににんしゃ)のようだが神様の前では真の信仰の英雄たち >

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!今年もあつという間に歳月が流れてもう 8 月末に入っています。神様が喜ばされる御心は何であるかをぜひ見つけてください。神様の前では大きい働き、小さい働きがないことを覚えてください。ただ、あるなら神様の前でやるべきこととやっちはいけないことだけがあります。聖書をじっくり読んでみるとおよそ 3000 人の人物が記録されています。正確に言うと、2930 人です。この中でみなさんが覚えている信仰の偉大な人物たちは何人ぐらいでしょうか。彼らを通して神様がなされた偉大なみわざをどのぐらい覚えているのでしょうか。わずかだけだと思います。事実その少数の英雄たちが神様の偉大な働きを果たせた背後には、それこそただ神様の御心に従って、神様に喜ばれるために、名前もなく仕えていたたくさんの信仰の人たちがいた事実を私たちは忘れてはいけません。

アブラハムの後ろで充実に仕えていたしもベエリエゼル(創世記 24:1-14)、モーセが祈るとき手をあげて助けてくれたフル(出 17:8-16)、ヨシュアを支持してくれたカレブ(ヨシュア 14:1-15)、ダビデの命を救ってくれたヨナタン(第一サムエル 18:1-5)、預言者エリサを仕えていたシュネムの女(第二列王記 4:8-17)、パウロのために献身したエパフロデト(ピリピ人への手紙 2:25-30)など実は聖書に隠されている宝石のように輝いている信仰の英雄たちがどれだけたくさんいるかわかりません。私はある面、歴史の舞台の後ろに立っていた彼らこそ信仰の真の英雄たちだと思います。世の人々からの注目や人気よりもくもくと神様の約束の御言葉を握って神様だけに認められたら、それで十分だという者たちでした。

私は彼らも天国で信仰のヒーローたちと同じ冠をかぶせられ神様に賞賛を受けたと信じます。

このように第二人者のような人生だったのにもかかわらず、ひたすら神様に献身し、主のしもべらを仕えていた彼らをみながら私は大きく励まされます。そしていま私がやっている働きを人々がわかってくれなくても神様はすべてをご存知で尊く認めてくださると思うとどれだけ慰めと感謝の課題になるのかわかりません。

今年も半年間、とつても小さなことにもかかわらず、そして自分とは直接関係ないが神様に喜ばれることなのでいままで仕えてきている方々に神様からの大いなる慰めと恵みがあふれますように祝福し祈ります。私は私たちの教会にもそのような方々がたくさんいることに本当に感謝しています。そしてつづけてこのような信仰の人々が増えるように祈ります。隠されているが神様の御心が全うされるように、神様に喜ばれることのために、自分のことではないけれど喜んで仕える信仰の二人者のような方々が増えてほしいです。

< まとめ >

愛するみなさん!ダビデは生きている間、自分の生涯を振りかえてみながら神様に喜ばれることに献身し、そして神様に対する最善の愛をささげました。それだけではなく神様からの NO サインをいただいた時彼は今まで与えられ、導かれて来ている神の祝福を覚えながら感謝をささげました。そして神様から断れている時こそ、神の豊かな約束をかたくにぎって神様が成し遂げてくださる事を信仰の目で見ることができました。そのため自分とは直接関係はありませんでしたが、神様の御わざのため人生の残りを燃やして行くことができました。これがまさに「エッサイの子ダビデは私の心に適う者だ」と神様から認められた理由だったのと信じます。

神様は私たちに YES!とも答え、祝福して下さいますが、NO!だと言われた事にはさらに大きい祝福を与えてくださる事実を忘れないで下さい。そして今日も明日も永遠にかわらない我々に向う神様の豊かな約束をつかむクリスチャンプレイズチャーチの信仰のみなさんとなりますように主イエスキリストの御名によって祝福します。

“私たちすべてのために、ご自分の御子をさえ惜しまずに死に渡された方が、どうして、御子といっしょにすべてのものを、私たちに恵んでくださらないことがありましよう。(ローマ 8:32)”アメン!

